

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グループホーム独自の理念を職員で共有し、職員で日々利用者の支援に取り組んでいる。	法人の3つの理念の他、開設前に職員で作ったホーム独自の「笑顔とその人らしさを大切に、地域で安心して生活できるよう支援する」を理念とし、月1回の職員全員による定例会で確認している。管理者は月1回、法人全体の代表者会議にも参加し、法人内の他のグループホームとの情報交換もし、職員と共に現場で理念の実践に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	1年目という事で、地域とのつながりという点では薄いが、施設として地区の会議などに出席し地域の方と交流を行っている	自治会費も払い地区の一員となっており、地区の新年会にも管理者が参加し、地元の方とのコミュニケーションを図っている。保育園、学校等とは距離があり、まだ交流とまではいかないがハーモニカのボランティアなどの来訪がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域への還元出来る様なものはまだないが、今後の取り組みとして地域に働きかけて行きたい		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度の開催を行い委員の方達に施設の状況など伝え意見など頂いている	開所1年目であるが、6月から2ヶ月に1回開催しており、地元の区長、2名の民生児童委員、利用者家族、地域包括支援センター職員、ホーム職員などが参加し、ホームの活動報告や防災などについて話し合いが行われている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の委員として参加して頂き施設の状況をお伝えしたり相談したりしている	月1回、市のケアマネージャー連絡会に参加し情報交換をしている。市の介護相談員が1~2名、2~3ヶ月に1回派遣され、30分くらい滞在し、利用者の話を聞いている。介護認定の更新の際に市の調査員がホームを訪れホーム職員からも情報を提供している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会を開き、基本的な確認や理解を深めている。	月1回の内部研修で、接遇や拘束について触れるようにしている。玄関は施錠されておらず、夕方になると不穏になり外出傾向のみられる方がいるが、職員が付き添うなどの対応をし拘束をしないケアを実践している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を開き、基本的な確認や理解を深めている。		

グループホームこうしゃ敬老園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会を開き、基本的な確認や理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時、家族に契約書や重要事項説明書にて説明を行い同意を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃のかかわりや、ご家族の面会の際に職員が状況を伝えたり相談を受けるようにしている	利用者の意見を日々聞くようにしている。家族会はまだないが、月に2~3回来訪する家族が多く、頻繁な方で週4~5回、少なくとも月に1回は来られるので声掛けをし、日頃の様子を伝え、家族の意見・要望等をお聞きし運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1度ケア会議を行い、話し合いの場を設けている。	月1回、職員全員で行うケア会議で意見を聞くようにしている。また、管理者は日々職員から意見を聞き、コミュニケーションを図るように心がけている。来年度から人事考課制度を試験的に行う予定がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人全体で職員管理を行い職員が働きやすい環境づくりを行っている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人外の研修への参加や法人全体で研修を行い、個々の職員の質を高めている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在は法人内の施設と交換研修や交流を行っている。また、市内の研修会にも参加している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に面談を行い本人の訴えや希望を聴き、安心して生活できるような関係作りに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申込みや面談時にサービスについての不安や希望をお聴きし、良い関係が築いて行けるように努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	担当ケアマネと連絡を取り合い、本人に必要なサービスが提供出来るようにしている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で、本人の持っている能力を生かし出来る事は極力して頂いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様の訴えがある場合は、電話や手紙等でやり取りが出来るようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者様の友達等からの連絡がある場合は、本人との間に入り、約束事等の漏れがないよう注意している。	友達、甥などの面会がある。利用者と面会者のツーショット写真も居室に飾られており、利用前からの良い関係が継続されている。馴染みの美容院に家族がお連れする方もおり、外出も兼ねた気分転換の良い機会となっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	トラブルが起きそうな場合や起きた時に、すぐに関係が修復出来るように心がけて対応している。		

グループホームこうしゃ敬老園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現在のところそのような事例は無いが必要に応じて相談や支援を行う事としている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、利用者本人の話を聴いたり様子観察に努めると共に、意思を伝える事が出来ない方には、本人が望んでいるであろう事を検討している	約三分の一の利用者は自分で希望や意向等を伝えることができる。また、筆談で伝えてくださる方もいる。意思疎通が困難な方については日頃の様子や表情からキャッチ出来るように心がけ、一人ひとりの意向にそえるよう対応している。利用前の趣味の縫い物を継続されている方もいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前情報や本人とのコミュニケーションの中で確認や把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	バイタル測定やケース記録を確認しながら、状態の変化に注意している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に1度ケア会議を行い、話し合いの場を設け改善点がある場合はその都度対応している。	職員は1~2名の利用者を担当しており、担当者がセンター方式でアセスメントし、職員全体のケア会議で計画作成担当者を中心に6ヶ月毎にケアプランの見直しを掛けている。状態に変化が見られた時にはその都度見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の個々の利用者のケース記録への記入や連絡帳への記入を行い日々の実践に生かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族のニーズに応じた対応を行うよう、心がけている。		

グループホームこうしゃ敬老園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	個々の利用者の地域の把握は困難であるがGHのある地域での生活が楽しめるよう地域への働きかけを行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時に聞き取りをしたご本人の主治医への受診していただくと共に主治医へ状況報告を行っている	ホームとしての協力医は総合病院であり、市全体でも往診をする医療機関が少ないため、かかりつけ医については個々に利用前からの主治医を継続していただき、受診は家族にお願いしている。受診の際には医療機関宛の情報提供書を作成し携行していただいている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週1回訪問看護師の訪問時や利用者の体調不良時に相談を行っている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時の情報提供や入院後の病院との連絡や面会を行い関係作りを行っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に意向の確認やターミナルケアの説明を行なっている。まだ、事例は無い	協力医療機関の総合病院から毎週水曜日に訪問看護師が来ている。医師の往診等はないため、「重度化対応及び終末期ケア対応指針」が作られており、看取りは状態により医師、家族等とその都度検討していくこととしている。協力病院ではいつでも受け入れていただけることになっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人他事業所と共同で消防署の職員を講師に救急法の講習を受けた		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域との防災協定を結び協力体制を築いているまた、自主訓練を行っている	開設間もないが地域との防災協定書が結ばれている。運営推進会議でも地元の委員からは協力頂ける旨の話があり、協力体制が築かれている。年2回の防災訓練も行われており、3月には夜間想定訓練を行う予定である。市の「あったか見守りネットなかの、高齢者見守り・徘徊SOSネットワーク」にも加入を予定している。スプリンクラーも設置されているが、立ち入り検査などもある。備蓄につきも食糧3日分、雑貨品などが用意されている。	

グループホームこうしゃ敬老園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の尊厳を大切にし、プライドを傷つけないような対応を心がけている。	接遇研修などを行っている。利用時に家族から情報提供していただいたことを基に一人ひとりの状態を把握し、気をそこねることのないよう対応している。食事介助時にも利用者につき添い、やさしく声掛けしながら介助されていた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の方たちが思いを伝えたり自分自身で行動できるよう、声掛けや働きかけを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人その人のペースに合わせた生活が出来るよう柔軟な対応を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧をする人や髪型を自分で整える人等には声掛けを行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	皮むきや味付け、片付けを出切る範囲で協力してもらっている。	全介助の方やトロミ食の方もおり、一人ひとりに合わせた食事が用意されている。食事の用意や片付けと一緒に出来る方が約半数いる。手作りおやつとしてホットケーキなどが作られ、利用者全員で楽しんでいる。メニューは法人の栄養士が作り、カロリー計算もされている。法人内のホームでは同じメニューとなっており、材料は法人の委託業者により配達されている。行事や季節が感じられるメニューにも配慮がされており、食事は利用者の大きな楽しみとなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食後食事量と水分量をチェックしている。また減塩食の人には味噌汁を薄めたり、漬物を水出して提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分で出切る人には声掛け確認行い、出来ない人は介助にて口腔ケアの実施に努めている。		

グループホームこうしゃ敬老園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人に合わせ、声掛けやトイレ誘導を実施している。	布パンツの方は若干名で、時々リハビリパンツを使用し夜間のみポータブルを利用される方もいる。排尿については一人ひとりのパターンを把握しており、声掛けをしながらさりげなくトイレ誘導を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表を活用しながら、排便コントロールに努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一ヶ月で予定を立てて入浴しているが、病院受診があったりした場合は本人の希望通り入浴している。	入浴は週2回を基本としている。最新式の浴槽でリフトも設置されており、機能低下しても入浴が可能で、重度になっても清潔保持される。ゆず湯なども行い、利用者が入浴を十分楽しめるように工夫がされている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者それぞれにあわせ、休息出来るよう時間を見ながら休んでいただいたり室温の調整などを行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	毎食時服薬の配薬や内服の援助を行っている。変更や追加などあった場合様子観察を心がけている。必要に応じてBD測定を実施している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	関わりの中で、利用者個々の楽しみなどを把握し、その方が生活の中で役割が持てるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	行事を計画し、少人数でドライブや花見に出掛けている。また、受診などは家族に依頼し出掛けている	ドライブも兼ね花見に出掛けている。馴染みの美容院に家族と外出される方もいる。陽気の良い時にはホームの周りを散歩するなど、ホーム外に出る機会を出来るだけ持つように心がけている。	今のところホームの車も少人数用で、外出も少人数になってしまいがち多いとはいえない。5月には隣接地に法人内のデイサービスも開設され、リフト付きの大型車が用意されるものと思われるので、日中の空いている時間にお借りし、ドライブなどの外出の機会が増えること期待したい。

グループホームこうしゃ敬老園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	社会参加が出来る方には所持してもらう事もあるが困難な方はご家族が管理している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を使用する際には、ダイヤルの確認を行っている。又手紙を出しに行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各利用者様の要望に答えながら、メリハリのあふる生活が送れるように援助している。	リビングは広い造りとなっており見通しが利く。窓際には手すり付きの階段が付いた畳敷きの小上がりが用意されており、地元の花火大会の開催時には大きな窓越しに花火見物が出来る。廊下の壁には掲示板があり、利用者の作った折り紙のおひなさまが飾られ、春が近いことを感じさせてくれた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	定期的に自席の変更をしたり、認知度によって自席の場所を固めたりしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた使い慣れたものの持込をしている。(布団・枕・時計・引き出し等)	居室にはペットと洗面台が用意されており、物入れは利用者が使いやすいように棚板が低く設定され、車椅子でも使いやすいような配慮が窺えた。家族の写真が飾られたり、お位牌が持込まれるなど、居心地よく過ごせるように工夫がされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	食事の後片付け、洗濯物干し・たたみ等出切る範囲で行っている。		